

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	普通 コース	4	国語科

使用教科書等	出版社
高等学校 標準国語総合	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。 ・古典を学習する上での基礎的、基本的事項を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・語句の習得 ・古典の基礎知識の習得 ・内容理解 ・適切な解答文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(宿題、自習課題) ・ノートを取り方 ・小テスト ・授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	随想(一) 世界は謎に満ちている 【中間考査】
	五・六	小説(一) 羅生門 古文入門 宇治拾遺物語「児のそら寝」(歴史的仮名遣い) 【期末考査】
第2学期	七・九	漢文入門 訓読に親しむ 評論(一) 水の東西 古文に親しむ 竹取物語「なよ竹のかぐや姫」(品詞・動詞・形容詞・形容動詞の活用) 【中間考査】
	十・十一	故事成語 五十歩百歩 随想(二) 黄色い花束 【期末考査】
第3学期	十二・一	説話と随筆 徒然草「高名の木登り」「ある人、弓射ることを習ふに」 小説(二) 卒業ホームラン 【期末考査】
	二・三	漢詩の鑑賞 唐詩の世界「静夜思」「春暁」

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	進学 コース	5	国語科

使用教科書等	出版社
高等学校 標準国語総合	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。 ・古典を学習する上での基礎的、基本的事項を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・語句の習得 ・古典の基礎知識の習得 ・内容理解 ・適切な解答文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(宿題、自習課題) ・ノートを取り方 ・小テスト ・授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	随想(一) スイッチをOFFにすることから始める 世界は謎に満ちている 【中間考査】 古文入門 宇治拾遺物語「児のそら寝」
	五・六	小説(一) 羅生門 【期末考査】
第2学期	七・九	評論(一) 水の東西 漢文入門 訓読に親しむ 故事成語 五十歩百歩 【中間考査】
	十・十一	随想(二) 黄色い花束 古文物語 伊勢物語 漢詩の鑑賞 唐詩の世界 【期末考査】
第3学期	十二・一	評論(二) 人はなぜ仕事をするのか 古文 日記 土佐日記 小説(二) 卒業ホームラン 評論(三) イースター島になぜ森がないのか 【期末考査】
	二・三	評論(三) イースター島になぜ森がないのか

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	特別進学 コース	5	国語科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂版標準国語総合	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 現代文、古文、漢文の読解を通して、1年生として必要な国語力を身につけるとともに、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を養う。 2. 古典を学習する上での基礎的、基本的事項を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	○漢字の読み書き、語句の習得 ○古典の基礎知識の理解 ○読解力、表現力	○学習態度、出席状況 ○小テストの得点 ○提出物
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈現〉随想『世界は謎に満ちている』手塚治虫 〈現〉小説『とんかつ』三浦哲郎 【中間考査】
	五・六	〈現〉小説『とんかつ』三浦哲郎 〈古〉「古文入門」『宇治拾遺物語』(歴史的仮名遣い) 〈古〉『沙石集』(品詞、動詞の活用) 【期末考査】
第2学期	七・九	〈漢〉「漢文入門」「故事成語」 〈古〉古典文法(形容詞・形容動詞の活用) 〈現〉評論『水の東西』山崎正和 【中間考査】
	十・十一	〈古〉『徒然草』(助動詞の活用) 〈現〉評論(二)『コミュニケーションは創造的に』伊藤進 〈漢〉『十八史略』 【期末考査】
第3学期	十二・二	〈現〉詩「道程」「I was born」 〈古〉『伊勢物語』(助詞の学習) 〈古〉「万葉・古今・新古今」 〈漢〉「漢詩の鑑賞」(漢詩の決まり) 【期末考査】
	三	演習問題

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	普通 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
『現代社会』	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、基礎的な知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学習した概念や理論を理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。また、現代社会において解決しなければならない具体的な諸課題を、政治と経済を関連づけて考えさせるように記述式の設問も設定する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	第1部 わたしたちの生きる社会 ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 【中間考査】
	5 ・ 6	②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活 第2章 日本国憲法と民主政治 第1節 民主政治とは ①民主政治の成立 【期末考査】
第2学期	7 ・ 9	②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 第2節 日本国憲法の基本原理 ①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障(1) ③基本的人権の保障(2) 【中間考査】
	10 ・ 11	④新しい人権と人権保障の広がり ⑤平和主義と安全保障(1) ⑥平和主義と安全保障(2) 第3節 日本の政治機構 ①国会と立法 ②行政と内閣 【期末考査】
第3学期	12 ・ 1	③裁判所と司法 ④地方自治 第4節 現代社会の特質と課題 ①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加
	2 ・ 3	【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	進学 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
『現代社会』	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	政治・経済・国際社会に関する基本的な概念や理論について理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1部 わたしたちの生きる社会 ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③科学技術の発達と生命 ④情報化の進展と生活 【中間考査】
	5	第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1、現代社会と青年の生き方 ①現代社会と青年 ②青年期の発達課題 ③自己形成と社会との関わり ④進路と生きがいの創造 2、よりよく生きることを求めて ①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 【期末考査】
	5 ・ 6	
第2学期	7	⑤人間性の回復を求めて ⑥日本の伝統思想の考え方 ⑦外来思想の受容と日本人の自覚
	9	第2章 日本国憲法と民主政治 1、民主政治とは ①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 【中間考査】
	10 ・ 11	2、日本国憲法の基本原理 ①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障(1) ③基本的人権の保障(2) ④新しい人権と人権保障の広がり ⑤平和主義と安全保障(1) 【期末考査】
第3学期	12 ・ 1	⑥平和主義と安全保障(2) 3、日本の政治機構 ①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 4、現代政治の特質と課題 ①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加 【期末考査】
	1 ・ 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	特進 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
『現代社会』	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	政治・経済・国際社会に関する基本的な概念や理論について理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1部 わたしたちの生きる社会 ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③科学技術の発達と生命 ④情報化の進展と生活 【中間考査】
	5	第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1、現代社会と青年の生き方 ①現代社会と青年 ②青年期の発達課題 ③自己形成と社会との関わり ④進路と生きがいの創造 2、よりよく生きることを求めて ①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 【期末考査】
	5 6	
第2学期	7	⑤人間性の回復を求めて ⑥日本の伝統思想の考え方 ⑦外来思想の受容と日本人の自覚
	9	第2章 日本国憲法と民主政治 1、民主政治とは ①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 【中間考査】 2、日本国憲法の基本原理 ①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障(1) ③基本的人権の保障(2) ④新しい人権と人権保障の広がり ⑤平和主義と安全保障(1) 【期末考査】
第3学期	1	⑥平和主義と安全保障(2)
	3	3、日本の政治機構 ①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 4、現代政治の特質と課題 ①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	普通 コース	4	数学科

使用教科書等	出版社
改訂新数学 I / ニューファースト改訂新数学 I	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、数学的な思考力・表現力を育てると共に、学ぶ意欲を高める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期に中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第 1 学期	4 5	1章 数と式 1節 整式 【中間考査】
	5 6	2節 実数 3節 方程式と不等式 【期末考査】
第 2 学期	7 10	2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次関数の値の変化 【中間考査】
	11 11	3章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の応用 【期末考査】
第 3 学期	1 3	4章 集合と論証 1節 集合と論証 5章 データの分析 1節 データの分析 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	進学 コース	4	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版 新編数学 I / 3TRIAL数学 I・A	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、数学的な思考力・表現力を育てると共に、学ぶ意欲を高める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。 各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第 1 学期	4	第1章 数と式 1節 式の計算
	5	2節 実数 【中間考査】
		3節 1次不等式
	5	第2章 集合と命題
	6	【期末考査】
第 2 学期	7	第3章 2次関数 1節 2次関数のグラフ
	8	2節 2次関数の値の変化
	9	3節 2次方程式と2次不等式 【中間考査】
	10	第4章 図形と計量 1節 三角比
	11	2節 三角形への応用 【期末考査】
第 3 学期	1	第5章 データの分析
	2	数学 I の復習
	3	【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	1	進学 コース	2	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版 新編数学A／3TRIAL数学I・A	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念，公式を十分に理解する。 ・問題集で計算力や応用力を高め，模試や入試に対応できる学力を養う。 ・主体性を持って他者と関わり，集団を高める態度を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。 各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容	
第1学期	4	▽ 集合 (共通部分と和集合, 空集合, 補集合, ド・モルガンの法則)	
	5	▽ 場合の数(1) (集合の要素の個数, 倍数の個数) 【中間考査】	
	5	▽ 場合の数(2) (順列, 円順列, 重複順列, 組合せ, 組分け, 同じものを含む順列)	
	6	【期末考査】	
	第2学期	7	▽ 確率 (試行と事象, いろいろな事象の確率, 排反事象, 余事象, 反復試行, 条件付き確率)
		10	【中間考査】
10		▽ 整数の性質 (約数と倍数, 素因数分解, 互いに素, ユークリッドの互除法, 1次不定方程式, n進法) 【期末考査】	
第3学期	1	▽ 図形の性質 (三角形の角の二等分線, 三角形の外心・内心・重心, チェバ・メネラウスの定理, 円に内接する四角形, 円と直線, 接弦定理, 方べきの定理, 2つの円)	
	2	【期末考査】	
	3		

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	特進 コース	4	数学科

使用教科書等	出版社
数学 I 改訂版／アドバンスプラス改訂版数学I+A／Focus Gold数学I+A	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念、公式を十分に理解する。 ・問題集で計算力や応用力を高め、模試や入試に対応できる学力を養う。 ・主体性を持って他者と協働して学習する態度を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。 各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	▽ 数と式 整式 展開・因数分解 実数 根号を含む計算 【中間考査】 方程式と不等式(絶対値を含む) 2次方程式 ▽ 集合と命題 逆・裏・対偶 必要条件・十分条件・必要十分条件 【期末考査】
	5	
	6	
第2学期	7	▽ 2次関数 関数とグラフ 2次関数のグラフ 平行移動 2次関数の最大・最小 2次不等式とその応用 【中間考査】 ▽ 図形と計量 鋭角の三角比 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 図形の計量 空間図形の計量 【期末考査】
	10	
	11	
第3学期	1	▽ データの分析 度数分布表 代表値 四分位数 箱ひげ図 分散 標準偏差 散布図 相関係数 ▽ 数学Ⅱ の内容 【期末考査】
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	1	特進 コース	2	数学

使用教科書等	出版社
数学A改訂版／アドバンスプラス改訂版数学I+A／Focus Gold数学I+A	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を十分に理解させる。 ・ 問題集で計算力、応用力を高める。 ・ 模試や入試に対応できる学力を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を 確認する。また、問題集や参考書にある 応用的な内容への取り組みとその理解 度を確認する。 各学期ごとに中間考査、期末考査を 実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や小テストの出来 具合、課題提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		序章 集合
	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数
	5	
		【中間考査】
	5	第2節 順列・組合せ
	6	
	【期末考査】	
第2学期	7	第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率
	9	
		【中間考査】
	10	第2節 互除法と不定方程式 第3節 整数の性質の活用
	11	
		【期末考査】
第3学期	1	第2節 円の性質 第4節 空間図形
	2	
		【期末考査】
	3	1年間の復習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	普通 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
物理基礎	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 1. 速さと速度 2. 等速直線運動 3. 速度の合成 4. 相対速度 5. 加速度 6. 等加速度直線運動 7. 重力加速度と自由落下 8. 鉛直投射 9. 放物運動 【中間考査】 第2章 力と運動 1. 力とは何だろうか 2. 力の合成と分解 3. 力の釣り合い 4. 作用・反作用 5. 慣性の法則 6. 運動の法則 7. 運動方程式の立て方 8. 摩擦を受ける運動 9. 圧力と浮力 10. 空気の抵抗 【期末考査】
	5 6 7	
第2学期	7 8 9 10	第3章 仕事とエネルギー 1. 仕事 2. 仕事の原理と仕事率 3. 運動エネルギー 4. 位置エネルギー 5. 力学的エネルギーの保存 6. 保存力と保存力以外の力 【中間考査】
	1 0 1 2	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と温度 2. 熱量と比熱 3. 熱量の保存 4. 物質の三態と分子の熱運動 5. 熱と仕事 6. 熱機関と不可逆変化 第3部 波 第1章 波の性質 1. 波の伝わり方 2. 波の表し方 3. 縦波と横波 4. 波の重ね合わせ 5. 波の反射 第2章 音 1. 音波の伝わり方 2. 共振・共鳴 3. 弦の振動 4. 気柱の振動 【期末考査】
第3学期	1 2 3	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 1. 静電気 2. 電流と電気抵抗 3. 様々な物質と抵抗率 4. 抵抗の接続 5. 電力と電力量 第2章 交流と電磁波 1. 電流と磁界 2. 電磁誘導 3. 交流の発生 4. 電気が家庭に届くまで 5. 電磁波 第5部 物理と私たちの生活 1. エネルギーの変換と保存 2. エネルギーの利用 3. 放射線の性質 4. 原子力の利用 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	普通 コース	2	理科
使用教科書等			出版社	
改訂 高等学校 生物基礎			第一学習社	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への興味・関心を深め、生物学的に探求する能力と態度を育むとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(第3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況や学習に取り組む姿勢、ノートや副教材、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	探究活動 顕微鏡の使い方 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 【中間考査】 第2節 細胞とエネルギー
	5 6 7	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体の構造 第2節 遺伝情報の複製と分配 【期末考査】 第3節 遺伝情報とタンパク質の合成
第2学期	8 9 10	第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き 第2節 体内環境の維持のしくみ 【中間考査】 第3節 生体防御
	1 0 1 2	第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 第2節 バイオームとその分布 【期末考査】
第3学期	1 2	第5章 生態系とその保全 第1章 生態系 第2章 生態系のバランスと保全 【期末考査】
	3	まとめ学習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	進学コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂版 物理基礎	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 物体の運動 1節 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 2節 力 1. 力 2. 力のつり合い 3. 作用と反作用 4. いろいろな力 3節 運動の法則 1. 慣性の法則 2. 運動の法則 3. 運動方程式の活用
	5 7	第2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギー保存の法則 【期末考査】
第2学期	7 10	2節 熱とエネルギー 1. 熱と温度 2. 熱と仕事 第3章 波 1節 波の性質 1. 波とは何か 2. 重ね合わせの原理 2節 音 1. 音波 2. 発音体の振動
	10 12	第4章 電気 1節 電流 1. 静電気 2. 電流 3. 電気抵抗 4. 電気とエネルギー 2節 電気の利用 1. モーターと発電機 2. 交流 3. 電磁波 【期末考査】
第3学期	1 3	第5章 人間と物理 1節 エネルギーとその利用 1. 化石燃料と再生可能エネルギー 2. 原子力 3. エネルギーの変換と保存 2節 物理学が拓く世界 1. 物理学と科学技術 2. 物理学と日常生活 3. 自然現象の新たな理解と未解決の問題 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	進学 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
改訂 高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への興味・関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育むとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(第3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況や学習に取り組む姿勢、ノートや副教材、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1章 生物の特徴
	5	第1節 生物の多様性と共通性
	5	第2節 細胞とエネルギー
		【中間考査】
	5	第2章 遺伝子とその働き
	5	第1節 遺伝子の本体の構造
	7	第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報とタンパク質の合成 【期末考査】
第2学期	8	第3章 生物の体内環境
	8	第1節 体液とその働き
	9	第2節 体内環境の維持のしくみ
	10	第3節 生体防御 【中間考査】
	1	第4章 植生の多様性と分布
	10	第1節 植生と遷移
	11	第2節 バイオームとその分布 【期末考査】
第3学期	1	第5章 生態系とその保全
	1	第1章 生態系
	2	第2章 生態系のバランスと保全 【期末考査】
	3	まとめ学習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	特進 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂版 物理基礎	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 物体の運動 1節 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 2節 力 1. 力 2. 力のつり合い 3. 作用と反作用 4. いろいろな力 3節 運動の法則 1. 慣性の法則 2. 運動の法則 3. 運動方程式の活用
	5 7	第2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギー保存の法則 【期末考査】
第2学期	7 10	2節 熱とエネルギー 1. 熱と温度 2. 熱と仕事 第3章 波 1節 波の性質 1. 波とは何か 2. 重ね合わせの原理 2節 音 1. 音波 2. 発音体の振動
	10 11 12	第4章 電気 1節 電流 1. 静電気 2. 電流 3. 電気抵抗 4. 電気とエネルギー 2節 電気の利用 1. モーターと発電機 2. 交流 3. 電磁波 【期末考査】
第3学期	1 3	第5章 人間と物理 1節 エネルギーとその利用 1. 化石燃料と再生可能エネルギー 2. 原子力 3. エネルギーの変換と保存 2節 物理学が拓く世界 1. 物理学と科学技術 2. 物理学と日常生活 3. 自然現象の新たな理解と未解決の問題 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	特進 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や主体的な学習に取り組む姿勢、課題等の提出物によって多面的総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1章 生物の特徴 顕微鏡の取り扱い方
	5	1 生物の多様性と共通性
	5	【中間考査】
	5	2 細胞とエネルギー
	5	第2章 遺伝子とその働き
	6	1 遺伝現象と遺伝子 2 遺伝情報の複製と分配 【期末考査】
第2学期	7	3 遺伝情報とタンパク質の合成
	5	第3章 生物の体内環境
	9	1 体液とその働き 2 生体防御 【中間考査】
	10	3 体内環境の維持のしくみ
	5	第4章 バイオームの多様性と分布
	12	1 生物の多様性とバイオーム 2 バイオームの形成過程 【期末考査】
第3学期	1	3 バイオームとその分布
	5	第5章 生態系とその保全
	2	1 生態系 2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全 【期末考査】
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1年(男)	普通	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2021 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、身体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。3学期は中間考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト① 集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技テスト
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇サッカー パス&コントロール ドリブル シュート ●実技試験
	11	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ 走り幅跳び ●実技試験
第3学期	12	◇バレーボール パス(オーバーハンド・アンダーハンド) レシーブ・スパイク ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体 育	1学年(女)	普 通 コース	2	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active Sports 2021 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト① ・ 集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇バレーボール パス (オーバーハンドパス ・ アンダーハンドパス) サーブ ・ スパイク ゲーム ●実技試験
第3学期	1	◇バスケットボール ドリブルシュート
	2	ゲーム ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1年(男)	進学・特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2021 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、身体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。3学期は中間考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト① 集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技テスト
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇サッカー パス&コントロール ドリブル シュート ●実技試験
	11	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ 走り幅跳び ●実技試験
第3学期	12	◇バレーボール パス(オーバーハンド・アンダーハンド) レシーブ・スパイク ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1女	進学・特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2021 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身につける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身につける。 3学期は期末考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト① ・ 集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇ハンドボール パス・シュート(ステップ・ジャンプ) 対人練習(2対2・3対3) ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1	普通・進学・特進 (男子) コース	1	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2021 [総合版]	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>①各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子をを整え体力の向上を図る。</p> <p>②公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	<p>①自己の能力と各種の武道の特性に応じた技能を高める。</p> <p>②体力向上のために武道の合理的な行い方を身に付ける。</p>	<p>①武道の意義や必要性を理解する。</p> <p>②武道の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。</p> <p>◆3学期は期末考査を実施</p>	<p>①計画的に、自ら進んで行うことで、武道の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>②健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。</p>
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	武道:空手道 ◇オリエンテーション ①礼法(立礼・座礼) ②補助運動・柔軟運動
	5	③基本動作(立ち) ◆実技試験(礼法・身体能力) ④基本動作(手技:突き・受け)
第2学期	7	武道:空手道 ⑤組手(約束:一本組手 Part.1) ◆実技試験(一本組手 Part.1) ⑥基本動作(手技:打ち・受け) ⑦組手(約束:一本組手 Part.2)
	10	◆実技試験(一本組手 Part.2) ⑧基本動作(足技:蹴り) ⑨組手(約束:一本組手 Part.3) ◆実技試験(約束:一本組手 Part.3)
第3学期	12	武道:空手道 ⑩基本動作(形) ⑪形(団体形:オリジナル) ◆実技試験(団体形:チーム)
	2	⑫実技理論(武道論・空手道論) ◆期末考査(40点)

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1学年(女)	普通・進学・特進 (各女子) コース	3	保健体育

使用教科書等	出版社
Active SPports 2021[総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を調整し体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。3学期は中間考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。健康・安全に関心をもち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		◇ダンス オリエンテーション フォークダンス 作品作り(中間発表) ●実技試験
第2学期		◇ダンス 作品発表 民踊 ●実技試験 現代的なリズムのダンス ●実技試験
第3学期		◇ダンス ダンスいろいろ ●実技試験 ダンス理論 ●実技試験

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
保健	1学年	普通 コース	2	保健体育

使用教科書等	出版社
現代高等保健体育	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	1学期… 中間考査・ 期末考査 2学期… 中間考査・ 期末考査 3学期… 期末考査 (課題提出も考える) 以上を実施し、その得点で評価する。	出席状況や学習態度により評価する。 課題や提出物の内容により評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		◇オリエンテーション ◇現代社会と健康 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 ◆中間考査 健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事と健康 ◆期末考査
第2学期		運動と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 ◆中間考査 薬物乱用と健康 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 ◆期末考査
第3学期		◇生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 家族計画と人工妊娠中絶 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
保健	1	進学・特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
現代高等保健体育(改訂版)	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。 ②生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	1学期 … 中間考査(40%)・期末考査(40%) 2学期 … 中間考査(40%)・期末考査(40%) 3学期 … 期末考査(80%) 以上を実施、その得点で評価する。	①出席状況や学習態度により評価する。 ②課題や提出物の内容により評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	①私たちの健康のすがた ②健康のとらえ方 ③健康と意志決定・行動選択 ④健康に関する環境づくり ◆中間考査 ◇オリエンテーション
	5	⑤現代の感染症 ⑥感染症の予防 ⑦性感染症・エイズとその予防 ⑧医薬品と健康 ◆期末考査
第2学期	7	⑨生活習慣病とその予防 ⑩食事と健康 ⑪運動と健康 ⑫休養・睡眠と健康 ◆中間考査
	10	⑬喫煙と健康 ⑭飲酒と健康 ⑮薬物乱用と健康 ⑯欲求と適応機制 ◆期末考査
第3学期	12	⑰心身の相関とストレス ⑱ストレスへの対応 ⑲心の健康と自己実現 ⑳思春期と健康 ㉑性意識と性行動の選択
	2	㉒結婚生活と健康 ㉓妊娠・出産と健康 ㉔家族計画と人工妊娠中絶 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
音楽Ⅰ	1	普・進・特・看護 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
改訂版 高校生の音楽1	音楽之友社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	音楽科の目標である「音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する」を踏まえ、基礎的な知識や技能の習得を通して、生涯にわたり音楽を愛好できる心を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	平常点(関心・意欲・態度)	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 音楽文化を尊重し、興味関心を高めているか。 意欲的・主体的に楽曲演奏に取り組んでいるか。 演奏活動への参加方法や態度。 研究ノートや学習プリント等への取り組みや提出状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現の工夫をしているか。 実技テストの内容 演奏発表の内容 学習プリント等の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 創造的な音楽表現の技能を身につけているか。 実技テストの内容 演奏発表の内容 学習プリント等の内容 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの音楽の特徴に対し理解を深め鑑賞できているか。 レポートの内容 演奏発表の内容 学習プリント等の内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	歌唱・・・校歌等、季節を歌う
	5	器楽・・・リコーダー基礎
	5	鑑賞・・・舞台芸術①(ミュージカル)について
	7	楽典・・・音楽の基礎的な理論(音名、反復記号等)
	7	
第2学期	7	歌唱・・・季節、世界を歌う
	8	器楽・・・リコーダーソロ
	10	鑑賞・・・舞台芸術②(能)について
	10	楽典・・・音程①
	11	
	12	
第3学期	1	歌唱・・・モーツァルトを歌う。
	2	器楽・・・リコーダー2重奏
	3	鑑賞・・・音楽史(バロック、古典、近現代)より代表的な作品
	3	楽典・・・音程②
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術 I	1	普・進・特・看護 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
高校美術1(116-日文・美I-302)	日本文教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を楽しむ愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・美術に対する興味・関心を高めているか。 ・意欲的・主体的に作品制作に取り組んでいるか。 ・制作活動への参加の仕方や態度で評価。	・美術の良さや美しさを感じ取り、豊かに表現の工夫をしているか。 ・提出した作品で評価。	・創造的な美術表現をするための技能を身につけているか。 ・提出した作品で評価。	・様々な美術作品や美術文化に対する理解を深めて鑑賞できているか。 ・レポート、作品鑑賞の内容で評価。
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	・ミーティング 【絵画】……スケッチ 【デザイン】…色の塗り方
	5	
	5	【絵画】……スケッチ 【デザイン】…文字のデザイン
第2学期	7	【絵画】……スケッチ 【デザイン】…線の模様
	10	
	11	【絵画】…スケッチ 【工芸】…連続する模様 【鑑賞】
	12	
第3学期	1	【絵画】……スケッチ 【工芸】……切り絵 【鑑賞】
	2	
	3	【絵画】……スケッチ 【デザイン】…アートフレーム
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
書道 I	1	普通、特進 コース	2	芸術科

使用教科書等	出版社
高校書道 I	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、自己を表現する能力と、書之美を感じ取る鑑賞の能力を養い、書の伝統と文化についての理解を深める。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 書道文化尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に取り組んでいるか。 関心意欲は作品の添削と提出状況。態度は出席状況、マナーで評価 	<ul style="list-style-type: none"> 書道の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。 感受性や表現は提出した作品で評価 	<ul style="list-style-type: none"> 創造的な表現をするための技能を身につけているか。 古典作品に対して特徴をとらえた技能で表現できていたか。作品によって評価 	<ul style="list-style-type: none"> 書道を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。 作者の作品を理解しているか。授業中の発言等によって評価
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

	月	学 習 内 容
第1学期	4	書写から芸術書道への導入 表現と用具・用材(文房四宝について) 姿勢・執筆法の基本(永字八法・臨書について) 漢字の書(楷書) 1. 九成宮醴泉銘(欧陽詢)
	5	漢字の書(楷書) 1. 孔子廟堂碑(虞世南)
	6	2. 雁塔聖教序(褚遂良) 3. 自書告身(顔真卿) 4. 牛欄造像記
第2学期	7	漢字の書(行書)
	8	1. 蘭亭序(王羲之) 2. 文化祭作品創作
	9 10 11	硬筆の学習 (検定試験理論・実技練習) 競書大会作品 篆刻の学習
第3学期	12	書初め作品
	1	仮名の書
	2	1. 仮名の単体 2. 変体仮名・連綿
	3	漢字仮名交じりの書創作

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	普通 コース	3	英語

使用教科書等	出版社
VISTA English Communication I New Edition	三省堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストの出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	Lesson 1 Kerama Blue
	5 7	Lesson 2 Cool Japan Lesson 3 Mexican Dishes
第2学期	7 10	Lesson 4 The Olympics Lesson 5 Baobabs in Madagascar
	1 2	Lesson 6 Toothbrushing in Edo Lesson 7 Machu Picchu
第3学期	1 2	Lesson 8 Motala and Landmines Lesson 9 Dick Bruna

科目名	対象			単位数	担当教科
	学年	コース			
英語表現 I	1	普通	コース	2	英語科

使用教科書等	出版社
Vision Quest English Expression I Core	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②言語材料を正しく理解する。 ③情報や自分の考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	原則として、各学期に中間・期末考査を実施し、総合的な英語力を確認し評価する。	授業中の小テスト、プリント・ノート・課題等の提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		GET READY1～4
		Lesson 1 Do you like sports? Lesson 2 I study Japanese through anime. Lesson 3 Will you go back home this summer?
第2学期		Lesson 4 I've never played soccer before. Lesson 5 The apple pie is delicious. Lesson 6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House.
		Lesson 7 Thank you for your invitation today. Lesson 8 How about going together this weekend? Lesson 9 I'm unhappy with our school uniforms.
第3学期		Lesson 10 That's why it looks so nice. Lesson 11 I hear the population of Japan is falling quickly. Lesson 12 I wish it were possible to get it back.

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	進学 コース	4	英語

使用教科書等	出版社
Grove English Communication I New Edition	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出題する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	Lesson 1 Omotenashi
	5 5 7	Lesson 2 Why is that so?
第2学期	7 5 1 0	Lesson 3 The Bento Goes International
	1 0 5 1 2	Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship
第3学期	1 2 5 2	Lesson 5 The Impossible Is Possible Lesson 6 Eric Carle: How He Creates His Art

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 I	1	進学 コース	2	英語科

使用教科書等	出版社
Dual Scope English Expression I	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけると共に、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。また練習問題の繰り返しによって英文法の基礎を築く。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	定期考査において、各単元の文法項目を良く習得・理解し十分表現活動に活かすことができているかを確認し、評価する。	授業中のリスニングテスト、ノート・課題・プリント等の提出物、発表やコミュニケーション活動の状況を総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4月・5月	Lesson1 英語の型で表現する Lesson2 さまざまな「時」を表現する
	5月・6月	Lesson2 さまざまな「時」を表現する Lesson3 助動詞を使って表現する
第2学期	7月・9月	Lesson4 受動態を使って表現する Lesson5 不定詞を使って表現する
	11月・12月	Lesson6 動名詞を使って表現する Lesson7 分詞を使って表現する
第3学期	1月	Lesson8 比較を使って表現する Lesson9 関係詞を使って表現する
	2月	Lesson10 仮定を使って表現する

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	特進 コース	4	英語

使用教科書等	出版社
Grove English Communication I	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①英語を通して、他者とのコミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②一定量の英文を読んで、情報を適切に読み取り、その内容を理解する。 ③自分の意見や考えを適切に英語で表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出題する。	授業注のペアワーク等での取り組み姿勢、ファイル及び課題等の提出物、単語テスト、プレゼンテーション(発表)もしくはパフォーマンステスト(スピーキング)の内容により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 1 <i>Omotenashi</i>
	5 ~ 7	Lesson 2 Why is that so? Lesson 3 The Bento Goes International
	7 ~ 10	Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship Lesson 5 The Impossible Is Possible
	10 ~ 12	Lesson 6 Eric Carle: How He Creates His Art Lesson 7 The Netherlands-Living with Water
第3学期	1 2 ~ 2	Lesson 8 Collective Intelligence Lesson 9 10 Billion

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 I	1	特進 コース	2	英語科

使用教科書等	出版社
Dual Scope English Expression I	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけると共に、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。また練習問題の繰り返しによって英文法の基礎を築く。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	定期考査において、各単元の文法項目を良く習得・理解し十分表現活動に活かすことができているかを確認し、評価する。	授業中のリスニングテスト、ノート・課題・プリント等の提出物、発表やコミュニケーション活動の状況を総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4月・5月	Lesson1 英語の型で表現する Lesson2 さまざまな「時」を表現する
	5月・6月	Lesson2 さまざまな「時」を表現する Lesson3 助動詞を使って表現する
	7月・9月	Lesson4 受動態を使って表現する Lesson5 不定詞を使って表現する
第2学期	11月・12月	Lesson6 動名詞を使って表現する Lesson7 分詞を使って表現する
	1月	Lesson8 比較を使って表現する Lesson9 関係詞を使って表現する
第3学期	2月	Lesson10 仮定を使って表現する

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	普通 コース	2	家庭科

使用教科書等	出版社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に修得する。 2. 知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約10%	約10%	約20%	約60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容	
第1学期	4	第1章 自分らしい人生をつくる 青年期の課題 これからの家庭生活と社会	
	5	第2章 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る 子どもとの触れ合いから学ぶ 親として共に育つ	
	5	第6章 衣生活をつくる 被服の役割を考える	
	7	期末考査	
	第2学期	7	第5章 食生活を作る 食生活について考える
		10	食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生
		1	生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎
1		調理実習	
2	期末考査		
第3学期	1	第7章 住生活をつくる 住生活について考える	
	2	住生活の計画と選択	
	1	第8章 経済生活を営む 職業生活を設計する	
	2	第4章 共に生き共に支える 社会保障の考え方	
3	第3章 高齢社会を生きる これからの高齢社会 期末考査		

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	特進・進学 コース	2	家庭科

使用教科書等	出版社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に修得する。 2. 知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約10%	約10%	約20%	約60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容	
第1学期	4	第1章 自分らしい人生をつくる 青年期の課題 これからの家庭生活と社会	
	5	第2章 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る 子どもとの触れ合いから学ぶ 親として共に育つ	
	5	第6章 衣生活をつくる 被服の役割を考える	
	7	期末考査	
	第2学期	7	第5章 食生活を作る 食生活について考える
		10	食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生
		10	第5章 食生活を作る 生涯の健康を見通した食事計画
12		調理の基礎 調理実習 期末考査	
第3学期	1	第7章 住生活をつくる 住生活について考える 住生活の計画と選択	
	1		
	2	第8章 経済生活を営む 職業生活を設計する	
	3	第4章 共に生き共に支える 社会保障の考え方 第3章 高齢社会を生きる これからの高齢社会	
	3	期末考査	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
社会と情報	1	普通・進学・特進 コース	2	情報・職業科

使用教科書等	出版社
新編 社会と情報	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	情報を収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。
---------	---------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
趣旨・基準	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために進んで情報および情報技術を活用しようとする。授業態度、出席状況で評価をする。	情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルをふまえた適切な判断をする。授業ノート、課題レポート等により評価をする。	情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。課題作品、発表により評価をする。	情報および情報技術を活用するための知識を身につけ、情報の意義や役割を理解している。各学期毎に実施する定期考査で評価をする。
評価割合	約20%	約20%	約30%	約30%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 第1節 私たちの生活と情報 第2節 情報社会と私たちのかかわり ワープロソフトでの文書の作成 (ワープロソフトの基礎と応用) 第3章 情報社会の課題と情報モラル 第1節 情報化が社会にもたらす利点と問題点 第2節 情報セキュリティの確保 第3節 情報社会における法と個人の責任 【期末考査】
	5	
	6	
	7	
	8	
第2学期	8	第1章 情報の活用と表現 第1節 情報のデジタル化 第2節 情報の表現と伝達 表計算ソフトによる情報の集計と分析 表計算ソフトの応用 第2章 情報通信ネットワークとコミュニケーション 第1節 コミュニケーション手段の発達 第2節 情報通信ネットワークのしくみ 第3節 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション 【期末考査】
	9	
	10	
	11	
	12	
第3学期	1	第3章 望ましい情報社会の構築 第1節 社会における情報システム 第2節 情報システムと人間 第3節 情報社会における問題の解決 プレゼンテーションソフトの利用 【期末考査】
	2	
	3	